

タイの工業団地(タイ工業団地公社)の動き その2 (タイ投資セミナーより)



今回は、タイの工業団地が大メコン圏の物流にどのように関わっていくのかをレポートいたします。

大メコン圏 (GMS : Greater Mekong Sub region) は、メコン川流域にある国 (ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国 (雲南省、広西チワン族自治区) の 6 カ国) の地域を指し、1992 年からアジア開発銀行 (ADB : Asian Development Bank) の主導により大メコン圏経済協力プログラム (GMS プログラム) が実施されています。

このプログラムは、メコン川流域の経済発展と開発を促進するものであり、円滑な国際貿易、インフラの整備、民間企業主導による競争力の強化、環境保護、人材育成などを目的としています。

対象国の一人あたりの 2011 年の GDP 比較は下記別表のとおりです。中国は上海、北京、広州など大都市圏も含んでいるため別格と考えると、タイは他の国と比べて 3 倍以上の経済格差があり、2015 年の ASEAN 共同体発足に向けて、メコン川流域国がこのプログラムによりグループ形成を行うことで、お互いの経済開発や発展を目的とし、貧富の差を縮小する必要があると考えられています。

No.	国	1人あたりのGDP(2011年) (単位:米ドル)
1	中国	5,430
2	タイ	4,972
3	ベトナム	1,411
4	ラオス	1,320
5	カンボジア	900
6	ミャンマー	869
参考	日本	45,903

出所: World Bank, World Development Indicators database

この地域を1つのマーケットと考えた場合、道路やメコン川を渡る橋梁などの整備を行えば、海上輸送が中心だったこれまでと比べ、輸送時間を大幅に短縮できることとなります。これらの道路は経済回廊として位置づけられ、南北、東西、南部といった3つの回廊（※レポート P3~4 参照）があり、タイのほか、日本政府や中国政府の援助によりインフラ整備が進められています。

しかし、このプロジェクトには、下記のようないくつかの課題も残されています。

◆ 言葉の問題

例: タイとラオスは言葉が近いこともあり、タイ人がラオス語を理解することは大抵の場合可能であるが、ベトナム語はタイ人にとって通常全く理解ができない言語である。そのため、事故などのトラブルになった場合に問題が発生する可能性がある。

◆ 道路インフラの整備

例: タイは、地方でも道路が整備されているが、ラオス、カンボジア、ベトナムなどの地方都市の場合、まだインフラが整っていない場所も多いため、夜間や住宅地域などでは徐行する場合も想定され、配送時間に影響が出る可能性がある。

大メコン圏を視野に入れてタイ国内の自動車産業を中心とした産業構造を考えた場合、これらの回廊が今後ますます重要視されると思われます。

現在の回廊の利用状況は、タイからベトナム、カンボジア、ラオスに対しては輸出超過であり、一般的な生活消費財を見ても、タイの缶ジュースや洗剤などがタイ以外の国で販売されていることが珍しくないことから、それがよく分かります。

また、これまではタイ国内で部品を調達していた企業も、カンボジアやラオスに労働集約的な工程を移管し、メコン地域内での効率的な生産体制を考えようとする動きがあると聞いています。

現在、タイの工業団地は、すでに物流ハブの機能も合わせ持っていますが、以下のような物流パークの計画も進行中です。

◆物流パークの種類

- 
- 1 内陸コンテナ倉庫
  - 2 貨物一次保存倉庫
  - 3 コンテナヤード
  - 4 コンテナ貨物ステーション

バンコク近隣の工業団地に限らず、郊外の工業団地も、昨年度の洪水の影響を忘れるかのような新規工場建設や拡張などの動きが活発です。物流の面でも、タイ国内のみでなく、ASEAN 地域を含めた輸出入も今後さらに多くなることが予想されます。

タイ工業団地公社副総裁の講演で、「今後は、労働集約型の製造業に関しては、タイではなく、隣国での進出を検討していただき、タイには付加価値のある製造業の皆様にお越しいただければ。」との話もあり、周辺国とタイアップした生産体制の確立（労働集約的な作業と、熟練労働者の作業を、国境を越えて分担すること）も必要になってくると思われるため、タイを含めた大メコン圏から目が離せない状況です。

(参考) 大メコン圏には、大きく 3 つの回廊があります。

◆南北経済回廊

中国雲南省の昆明からラオス及びミャンマーを経由し、タイのチェンライ県とバンコクを結ぶ約 2,000km の道路である。

中国の内陸部からタイの港湾までを繋ぎ、現在は道路のみ整備をされているが、将来は、タイのレムチャバン港からラオス首都ビエンチャンまで鉄道が運行される予定。さらに、ビエンチャンから雲南省まで鉄道の計画があるが、山間部でもあり計画の実行は難しいと考えられている。

◆東西経済回廊

ベトナムのダナン港からラオスのサバナケット、タイのムクダハンを經由し、ミャンマーのモーラムヤインまでを結ぶ約 1,500km の道路である。

この道路が開通するまでは、ダナンからバンコクまでは、海上輸送のみ（約 2 週間）であったが、開通後には、輸送時間が 3 日～4 日程度に短縮されており、今後も利用が増えると考えられている。

◆南部経済回廊

ベトナムのホーチミンからカンボジアのプノンペンを經由し、バンコクまでを結ぶ約 1,000km の道路であり、第 2 東西経済回廊とも呼ばれている。この回廊は、カンボジア国内のメコン川に橋が架かっていない状態であり、フェリーを利用しての輸送になるが、ホーチミン、バンコクという大都市を結ぶことから今後さらに注目される回廊である。

## 【岡山県タイビジネスサポートデスク】

<<日本国内デスク（株式会社アークビジネスサーチ内）>>

【所在地】：東京都千代田区神田小川町 1-11-8 大竹ビル 7 階

【担当者】：志賀 敦（しが あつし）

<<タイ/バンコク現地デスク（ARK ENTERPRISE CO., LTD. 内）>>

【所在地】：138 Boonmitr Bldg., 3rd Floor, Rm. A2, Silom Rd., Suriyawong, Bangrak  
Bangkok, 10500 Thailand

【担当者】：福田 淳（ふくだ じゅん）

※デスクのご利用にあたっては、まず岡山県産業企画課(086-226-7365)へご相談ください。